

「吉田茂に影響を与えた人たち」レジュメ

昭和21年から29年まで、7年余の間、内閣総理大臣として戦後復興の舵取りを行い、今日の日本の繁栄の礎を築いた“吉田茂”は、大磯をこよなく愛し大磯で大往生を遂げる。明治第二世代の生まれである吉田は、外交官として二度の戦禍を経験するなかで、英米との協調路線を基軸として邁進してきた。

彼を支えてきた人間の本質は、実の両親と養父母から受け継いだ反骨精神と気概であった。また妻雪子との結婚は、彼吉田茂の政治信条を形作る上での岳父・牧野伸顕との運命的な出会いであった。そして漢籍の素養と英国の自由主義の精神がその底流にあった。そんな吉田茂を慕ってやまなかったのが、“プリンシプル”が口癖で、筋を通す生き方に美学を感じていた白洲次郎であった。

吉田茂は、メディアや国民的な人気からは遠く離れた存在であった。メディアが発表する支持率に一喜一憂する政治家やメディアに乗った政治家に喝采を送る多くの国民がいるなかで、それとは全く正反対にいた吉田茂という政治家を再度見つめ直す必要があるのではないか。

そんな政治家・吉田茂を形作った人たちが実に沢山彼の周りにいたこと、さらにその人たちの多くはここ大磯に住み、また大磯にゆかりをもつ人たちであった。

それらの人たちを紹介しつつ、人間・吉田茂を紹介したいと思う。

平成27年3月12日

斎藤直人

NPO 法人 大磯ガイドボランティア協会

目 次

- 概要
- (吉田茂について)
- (吉田茂を巡る人たち)
- (吉田茂の華麗なる一族)
 - (養父母 吉田健三・土子)
 - (実父母 竹内綱・タキ)
- (吉田茂)
- (旧吉田邸庭園)
- (吉田茂の人となり)
- (数々のエピソード)
- (吉田茂名語録集)
- (吉田茂の愛したものの)
- (旧吉田邸スナップ)

概 要

(吉田茂について)

《業績》

- 昭和21年から29年まで、7年余の間、内閣総理大臣として、今日の日本の繁栄を築く ⇒ サンフランシスコ講和条約締結
- 外交官 ⇒ 英米強調路線が基軸

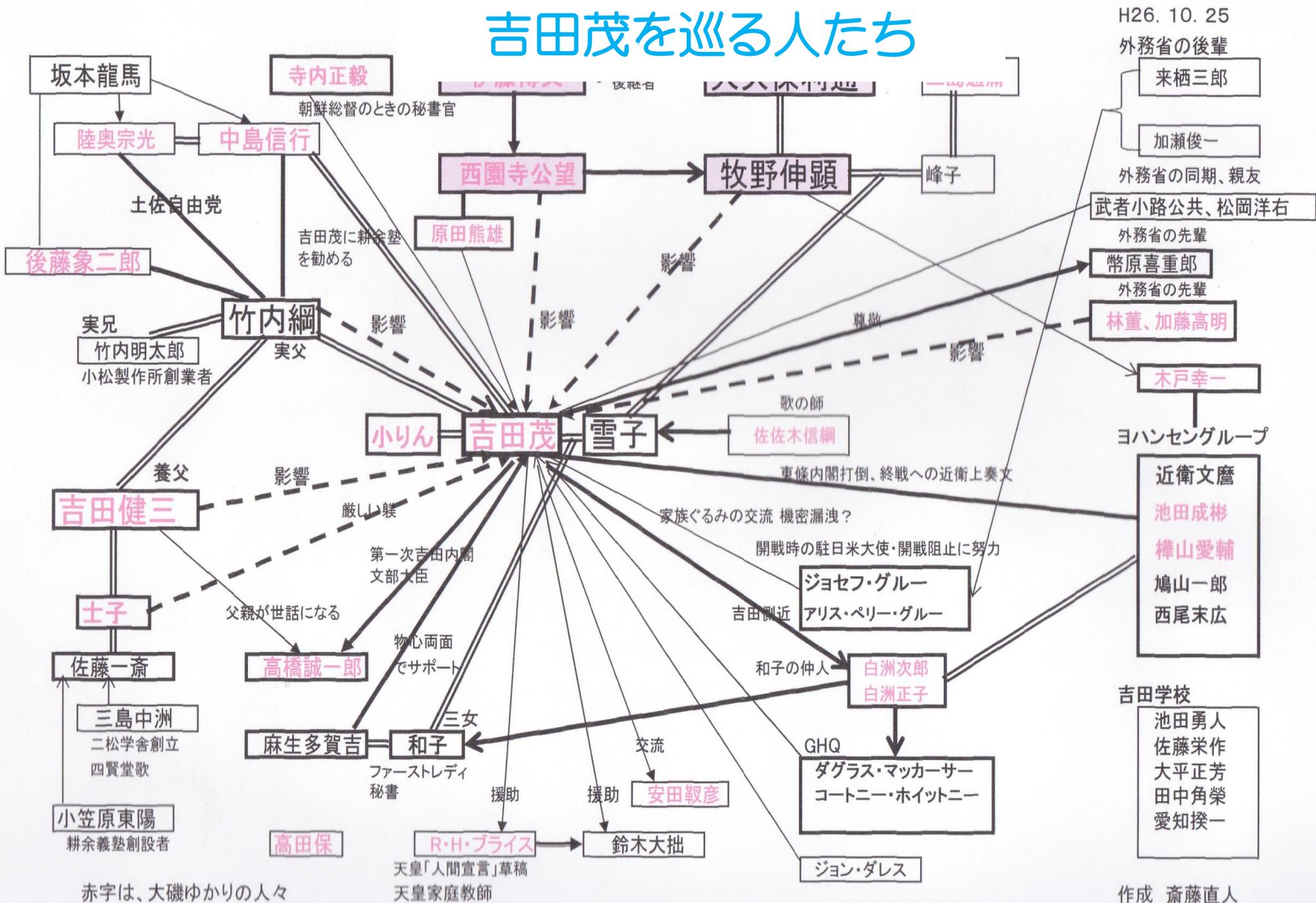
《人間の本质》

- 実の両親と養父母から受け継いだ反骨精神と気概
- 岳父・牧野伸顕(大久保利通二男)との運命的な出会い
⇒英国の自由主義の精神がその底流にあった。
- ポピュリズムの対極にいた政治家

《大磯との関係》

- 吉田茂に影響を与えた人たち、また彼が影響を与えた人たちは数多くおり、またその多くは大磯に在住していた。
- 吉田茂は、そんな大磯をこよなく愛し、ここで大往生を遂げる

吉田茂を巡る人たち



H26. 10. 25
外務省の後輩

来栖三郎

加瀬俊一

外務省の同期、親友

武者小路公共、松岡洋右

外務省の先輩

幣原喜重郎

外務省の先輩

林董、加藤高明

木戸幸一

ヨハンセングループ

近衛文麿
池田成彬
樺山愛輔
鳩山一郎
西尾末広

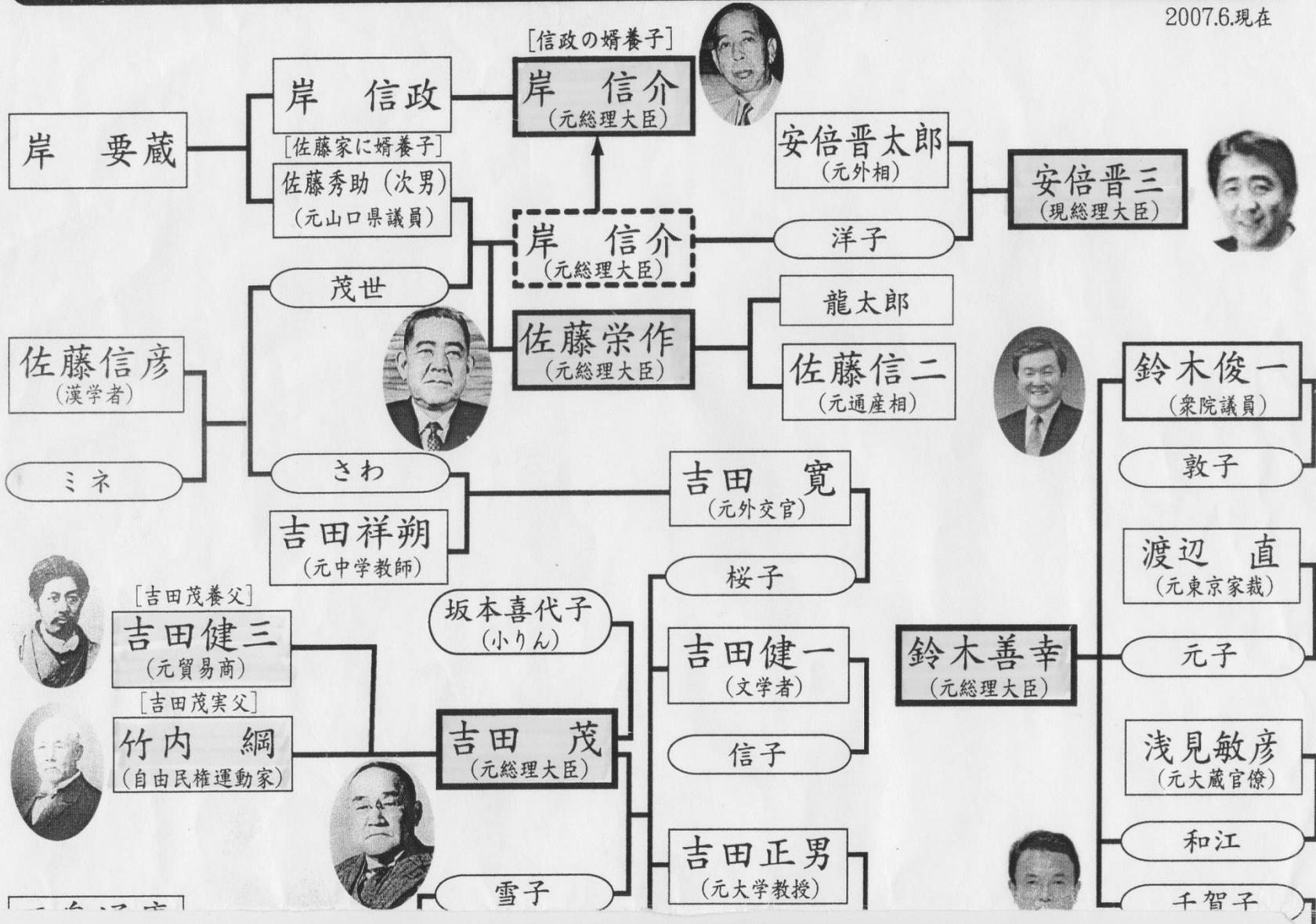
吉田学校
池田勇人
佐藤栄作
大平正芳
田中角榮
愛知揆一

作成 斎藤直人

吉田茂の華麗なる一族

故吉田茂元首相を中心とした華麗なる一族の系譜 (略図)

2007.6.現在



三島通庸
(元警視總監)

大久保利通
(内務卿)



安田善次郎
(安田財閥創始者)

峰子

[吉田茂義父]

牧野伸顕
(元内大臣)



大久保利賢
(元正金銀行)

安田善次郎
(安田財閥二代目)

利武子

秋月種英
(元貴族院議員)

大久保利春
(丸紅)

百合子

安田 一
(安田財閥三代目)

安田 弘
(安田学園)

久子

麻生太賀吉
(元麻生セメント会長)

和子

英子

武見太郎
(元日本医師会会長)



麻生太郎
(現外務大臣)

相馬和胤
(会社社長)

雪子

麻生 泰
(会社社長)

和子

荒船清彦
(元外務官僚)

旦子

三笠宮さま

三笠宮寛仁殿下

妃信子さま

太線枠は総理大臣 中太線枠は現閣僚議員



大磯ガイドボランティア協会編集/サイレント・スタジオ制作

(養父母 吉田健三・士子)



養父母 吉田健三・士子^{ことこ}

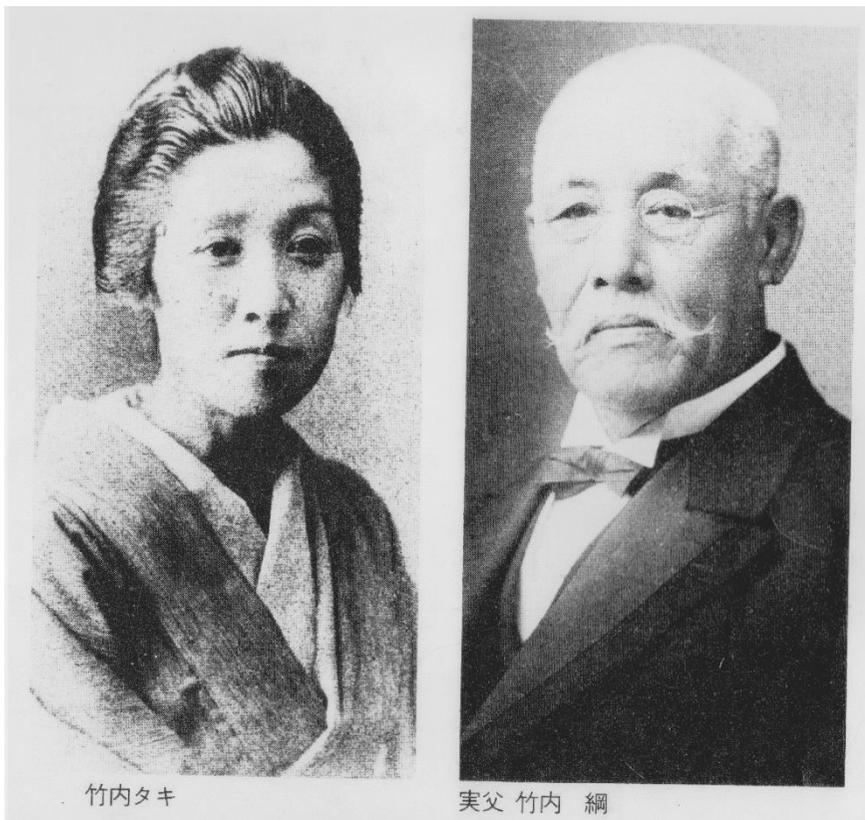
吉田健三は元福井藩士、脱藩して長崎に学び、イギリスに留学、明治後は横浜のジャーディン・マジソン商会支配人となる。子供のいない彼は親友竹内綱から次に男子が生まれたら養子にもらい受けると約束していた。吉田士子は幕末の大儒学者佐藤一斎の孫、吉田の教養の基礎には養母からの漢学の教育や躾^{しつけ}があった。



養母士子の祖父・佐藤一斎

(実父母 竹内綱・タキ)

土佐藩家老伊賀氏の家臣の子。土佐の自由民権運動家。後藤象二郎とは盟友。長崎で炭鉱開発を行う。明治11年「立志社の獄」で入獄するも、明治23年第1回衆議院議員選挙で当選。その後実業界に身を置き活躍する。長男・明太郎はのちに小松製作所を設立。



竹内タキ

実父 竹内 綱

吉田茂

(概要)

戦後、第45、48、49、50、51代内閣総理大臣。天津、奉天総領事、イタリア大使、外務次官歴任。皇學館大學総長、学校法人 二松学舎舎長歴任。

雅号は素淮(そわい)。

●幼少時

竹内綱の7男7女の5男。

耕余義塾、日本中学、学習院、東京帝国大学法科大学



11歳のとき、養父吉田健三が亡くなり数十億の遺産が舞い込んだ

●外交官時代

奉天総領事館～20年間各地の中国領事、総領事

牧野伸顕の娘・雪子との結婚⇒伊藤博文、西園寺公望、牧野伸顕と続く
自由主義精神



明治43年、駐伊大使館書記官時代、前年、牧野伸顕(大久保利通次男)の長女雪子と結婚

●反戦、和平工作

ヨハンセングループでの工作

●終戦後

45代内閣総理大臣。日本国憲法公布

サンフランシスコ講和条約調印、日本の繁栄の礎



吉田茂の二女・麻生和子と息子（前は麻生太郎）

旧吉田邸庭園

明治17年、養父吉田健三が別荘を建てたのが始まり

●敷地 約一万坪

●建物(松籟邸・吉田御殿 自称:海千山千荘)

建坪 約300坪

建築家・吉田五十八設計(昭和38年)

●庭園 昭和36年庭園完成

庭園設計 中島健(造園家)

☆池泉回遊式庭園

☆近代数寄屋建築(吉田五十八)と京都の庭園をベースとした庭園設計の見事さ。

☆背山臨水の配置

☆庭園～築山(砂丘)～相模湾～富士山・箱根山を望む

⇒ 垂直的なシークウエンスの演出

(庭園の説明)

- ①バラ園(プリンセスミチコ)
- ②兜門(サンフランシスコ講和条約門)
- ③心字池(亀島)
 全国の銘石を配置
- ④竹林の鎌倉古道
- ⑤吉田茂銅像

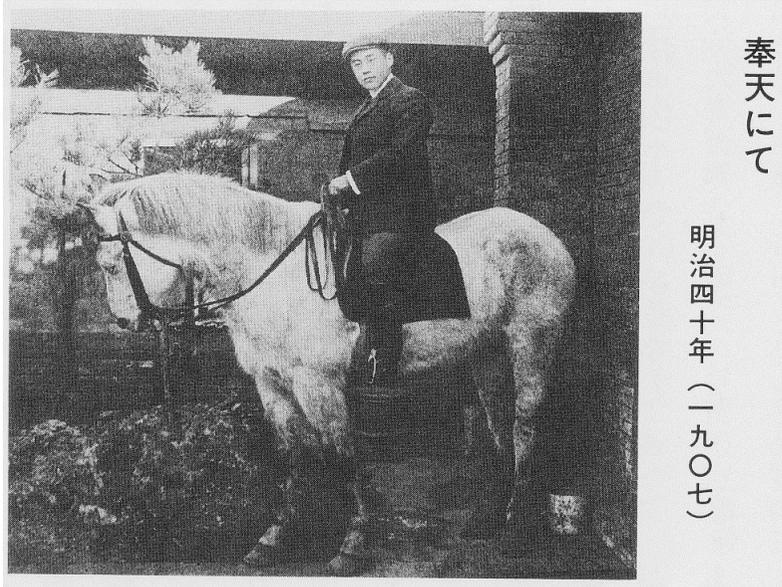
- ⑥七賢堂(四賢堂からの由来)

吉田茂の人となり

- 実父・竹内綱から先見性と実行力、妥協よりは決裂を選ぶ、強い性格
- 養父健三からは莫大な財産と家長の権限を！
個性的で、傲慢な養父・健三に鍛えられたことは、後年彼の「人を喰った」処世態度に大きな影響を与えた
- 養母・士子(幕末の儒学者・佐藤一斎の孫)からの愛情に恵まれた
⇒ 日々の生活を厳しく律する人
茂を“若様”と呼ばせた(看護婦、女中、執事、下男)
- 藤沢の「耕余義塾」に5年間通う ⇒ 漢籍の素養

数々のエピソード

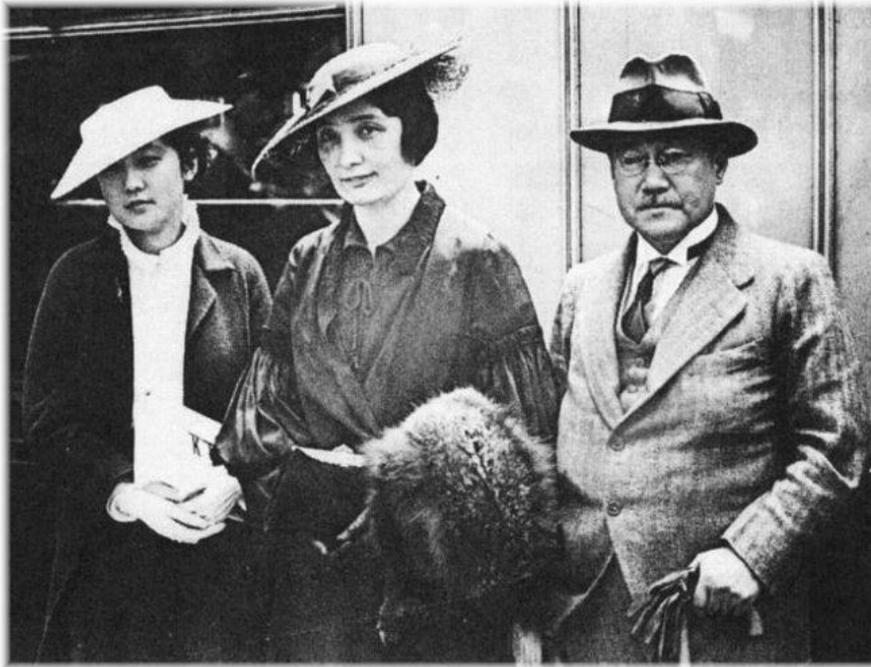
- 外務省初出勤の日、白馬に跨り馬上から局長に挨拶、赴任辞令が変更



- 明治41年、雪子との結婚披露宴は“痔”のため欠席した
- 全て一流の物を好む ⇒ 転勤の船旅は常に“スイートルーム”
ワイン、葉巻も一級品、妻の宝石もロンドンの高級宝石店で
- 寺内陸相（後、首相）にかわいがられるが、後“虎の尾”を踏んでしまう
- 吉田茂は達筆であった⇒北大路魯山人、佐佐木信綱が絶賛
- 養母・土子のつぶやき⇒茂は男を売ったが、財産は減らした

高橋誠一郎との対談で「養子が財産を増やすとは不届き至極ですね」

- 人に対する好き嫌いが強かった(榎橋渡、大野伴睦他)
- 娘・麻生和子は新橋芸者“小りん”を父・茂に推薦した



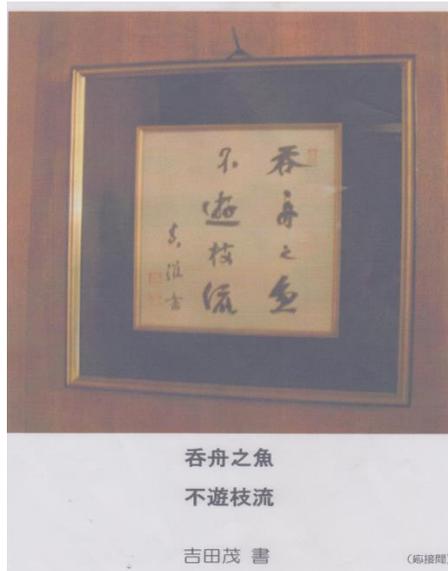
吉田茂・雪子夫妻と二女和子

- 昭和42年10月22日、吉田茂の密葬が行われた。場所は妻と同じ聖マリア大聖堂で、かつて妻の願い通り死後洗礼を受けていた。洗礼名はヨゼフ・トーマス・モアである。

吉田茂名語録集

- 私は領事、これから出掛けるから中には領事はいない
- 私は総理大臣なら務まるけど、秘書官はとても務まりません

—寺内首相から勧められて—



- 外套を着てやるから街頭演説です
- 宮中園遊会にて、天皇陛下から“大磯は暖かいですか”と尋ねられて
- 懲びていた葉巻 -----
- フィリピンから賠償を請求されているが

吉田茂の愛したもの

- 犬 テリア、シェパード等数匹を飼う
- 葉巻(シガー) ヘンリー・クレーとコロナ
シガーカッター ヘンケル製
マッチ ブライアント アンド メイ